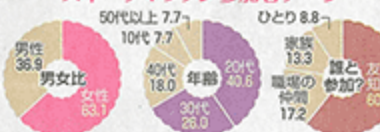


スイーツマラソン参加者データ



※単位は%、2015～16年シーズン。
スイーツマラソン事務局による任意アンケートから

女性、地方に照準

〇…「ファンラン」には幾つかのビジネス戦略がある。スイーツマラソンを例に取ると、「女性」と「地方」という2つのキーワードが見えてくる。

スイーツマラソン事務局によると、参加者の男女比は6割以上が女性。女性の参加は増加傾向にあるという。年代で見ると、流行に敏感で消費意欲が高いとされる20～30代の走者が約7割を占める。高木社長は「女性は誰かを誘って複数で参加することが多い。女性のパワーはすごい」と分析。実際に「友人・知人と参加した」が6割以上というデータがある。

若い女性の参加増は思わぬ効果も生んだ。当初は仮装を想定していなかったが、自発的に増えていったことで、「参加者が自分たちで楽しみをつくり出している」（高木社長）現状がうかがえた。

大会はこれまで東京、千葉、神奈川の首都圏だけでなく、北海道、宮城、福島、愛知、大阪、兵庫、広島、山口、福岡、大分と全国各地で開催してきた。高木社長は「地方の持つ力。6月には初めて西国で大会を行うが、地方創生、地方の活性化も大事なこと」と話している。

スイーツ食べながら…高い企画性

女性たちが数を上げながら、走っている理由を立ち止まらず、目の前に並べられたケーキやシュークリームを次々と食べながら走っている。先月19日に広島で行われた「第10回スイーツマラソン」で見られる光景だ。

スイーツマラソンはその名の通り、スイーツ甘い菓子を食補給しながら走るイベント。「給水所」ならぬ、「給スイーツ所」が設けられており、このときはシュークリーム、フルーツ、パームクレーンにりんごなど、約250種類菓子の菓子類が食べ放題として用意された。

人気だったのは、肉1・2、のこりを5個ずつも6個、部。参加者10559人のうち、大半の809人が選んだ。制限時間は60分。東広島市から来た三谷祥子さん（ごは母・美世さんご）と妹の貴子さん（ごはも）に誘われて、キャラクター「ミニオン」の格好で参加。「普段は全然走ったりしない、

んやけど、スイーツ自分で食べながら走りながら、甘い菓子を堪能した。

大会運営するインテリジェントスポーツマーケティングの高木貞治社長は「走る楽しさを提案するには、どうしたらいいかならぬ走らなすのメロドラマランに着想を得た」と言い、「日本でもアルコールは難しい、な、思い切ったスイーツまでいっ方がいい」と。

のれに結まる事故を防ぐため、菓子類はひと口サイズにし、もちは強力な磁石。食中毒の危険性を考慮し、梅雨時、夏場は開催しないなどの配慮もある。広島大会の参加費は6000円（小学生は3000円）。スイーツマラソン事務局によると、2010年に始まった大会はこれまで約10回開催され、計14万4000人以上の参加があった。

スイーツマラソンだけではな

「ファンラン」市民マラソンに変化

今、市民マラソンに変化が起きている。これまでのように記録の更新や勝つことを目的に走るのではなく、楽しさを求めて参加する動きが広がっている。「ファンランニング」と呼ばれ、イベント化する市民スポーツの実態と傾向を調べた。（谷野裕郎）



ランニングはキャラクターイベントを掛け合わせれば「ファンランニング」（通称ファンラン）と呼ばれる、年々知名度を上

さまざまなファンランニング

●バブルラン（写真：左）
泡（バブル）だらけになりながら走る

●たんのカレーライスマラソン
4人組でジャガイモなどカレーの材料を集めながら走る。ゴール後に作って食べる。北海道北見市

●カラールン（写真：右）
白いシャツを着て、カラールンに全身に浴びながら走る

●エレクトリックラン
音楽やイルミネーションで彩られた夜のコースを光るグッズをつけて走る

●富里スイカロードレース
千葉県富里市の名産・スイカを食べながら走る



びている。

例えば、泡にまみれて走る「バブルラン」、色とりどりのパウダーを全身に浴びる「カラールン」、ランニングから逃げる「ファンラン」など、5.5から10の距離と短めの距離と企画性が高いのが特徴。若者を中心に人気が高い。市民マラソンは今、タイムや完走という目標に向けて努力するスポーツから、友人らと一緒に楽しながら走っている新たな一面を持ちつつある。

「ランニングの動向について、陸上競技部ではどう思っているのか」として五輪委員マラソンの高橋尚子選手は「佐倉アスリートクラブの小出義雄代表は『一生懸命やっている人の中には、走りたい人ばかりいるかもしれないが、楽しんで走るのは決して悪いことではない』と賞賛的な姿勢を見せ、小出代表は『銀葉の目撃者』を走る市民ランナーの姿を見てきた」と提案し、東京マラソンの誕生に際したと、休戦や事故に対しては最大限の注意を払うべきだ」としながら、「マラソンはプロやアスリートだけではなく、市民が走るためにある。楽しむための存在」とも正しいことをさまざまな楽しみ方を数知りた

記録より走る楽しさ